

〔書評〕

大型植物化石の同定に役立つ図書や論文

大型植物化石のうち種子や果実は、概形、種皮や果実の表皮の構造や表面の模様、などに著しい特徴のあるものも多く、これらでは一度その特徴を把握するとその同定は比較的容易である。化石の同定は最終的には現生種や化石のタイプ標本との比較によるべきであるが、このような特徴を丹念に記載した文献があれば実に有用であろうと思われる。しかし残念ながらそのような便利なものはない、次に手許にあれば役にたつ文献類をあげておく。

藤山家徳ほか監修. 1982. 学生版日本古生物学図鑑. 574pp. 北隆館.

藤岡一男編. 1978. 新版古生物学Ⅳ. 456pp. 朝倉書店.

徳永重元・大森昌衛編. 1973. 古生物学各論第一巻. 251pp. 筑地書館.

最初のもは古生物学の図鑑であり、後の二者は古植物学の教科書である。何れも第三紀の葉の化石が中心であるが、第四紀の化石も扱っている。特に最初のもは写真も多く美しく最も種類も多く、少なくとも新生代の植物化石については現在の所もっとも優れた図鑑であり、しかも安価である。

三木茂. 1953. メタセコイア生ける化石植物. 141 pp. 日本鉱物趣味の会.

第四紀の古植物研究者の必読の書であり、学ぶものが多い。いくつかの化石の記載もある。

粉川昭平. 1975. 日本化石集30. 日本の後期新生代の古果実学の材料. Q 56-Q 61. 筑地書館.

日本の唯一の化石種実の図譜で、多くの種類を扱っている。

初島住彦・吉永和人. 1970. 日本産樹木の種子による分類(I). 鹿児島大学農学部演習林報告, 2: 71-110.

日本産樹木の種実図譜を作ろうという壮大なところみであるが、(I)以降が途絶えているのは残念である、ここではブナ科、カバノキ科、クマツヅラ科、などが扱われており、同定のための検索表もついている。但し実物を見ずにこの検索表だけで同定するのは危険である。

笠原安夫. 1976. 走査電子顕微鏡でみた雑草種実の造形. 130pp. 養賢堂.

微少な種実の表面の模様を詳しく調べており、同定にも役立つ重要な図書である。

Martin, A. C. & Barkley, W. D. 1961. Seeds identification manual. 221pp. Univ. California Press.

Montgomery, F. H. 1977. Seeds and fruits of plants of eastern Canada and Northern United States. 232pp. Univ. Toronto Press.

何れも北米の種実図譜であり木本、草本の両者を扱っている。属の形態を知ったり、1つの属の中にどの程度の変異があるのかを知るのにも有効である。日本でもこのような図譜が必要であろう。

この外に、様々な図鑑類に少しずつ記載されている種実の写真、スケッチ、記載文なども役に立つ。

(南木睦彦)